

憲法改悪反対！ 有事法制反対！ アジアから米軍基地を撤去しよう！
自衛隊の海外派兵反対！ 朝鮮半島をふたたび戦場にするな！

7・1 第22回 アジア労働者交流集会 in 神戸



～韓国からキム・ギヨンウク氏を迎えて～
　　イーランド一般労組 委員長

日時 / 2009年7月1日(水)
午後6時30分～

場所 / 神戸市勤労会館
多目的ホール

会費 / 1000円

＜略歴＞

- 1998年 陸軍退役 / フランス系流通会社である韓国カルフル入社。
- 2003年 労組加入 / 70日ストライキ / 労組委員長に当選。
- 2005年 非正規職労働者の労組加入を許容する了解覚書を締結。
- 2006年 非正規職労働者たちの雇用を保障する団体協約を締結。
　　イーランドグループが韓国カルフルを買収した後、ホームエバーと名称を変更。
- 2007年 イーランドグループが非正規職労働者に対する大量解雇を断行
　　労組が、ホームエバー店舗（ワールドカップ店）を占拠してろう城する。
- 2008年 サムソンテスコ（Tesco）がホームエバーを買収後、ホームプラスと名称を変更
　　ホームプラスの労使が団体協約を締結し、ストライキ闘争を終結する。

主催 / アジア労働者交流集会 in 神戸実行委員会

神戸学生青年センター (851-2760) 兵庫社会労働運動センター (361-3613) 自立労連神戸支部 (aluikobe@yahoo.co.jp)

<イーランド闘争とは? >

イーランド闘争は、大型量販店「ホームエバー」で働くレジ係など非正規職労働者が、勤続2年以上の正規職化を義務付けた「非正規職保護法」施行(2007年7月)直前に、いわば駆け込み的に大量解雇されたことに端を発する。

これに対しイーランド一般労組は2007年6月からストライキに突入、売り場を占拠して闘い、女性を中心とした労組員の闘いに多くの支援が寄せられた。これに対し政府と資本は、機動隊による暴力的排除や労組幹部の逮捕という激烈な弾圧を繰り返した。

弾圧に抗して続けられた512日間のストライキは、2008年11月に、労組に残る180人の原職復帰、16ヶ月以上働いた非

正規職の正規職化、非正規職への有給休暇付与などを勝ち取って終結した。

他方、労組は委員長を含む幹部の復職を断念して、上記合意を実現したという。

イーランド闘争は、韓国非正規職闘争の象徴となった。イーランド一般労組は正規職と非正規職がともに加盟する労組。韓国の非正規職は総労働人口の60%に迫る820万人で、低賃金・無権利の悪労働条件下におかれ、1ヶ月働いても7-80万ウォン(日本円で6万円程度)。



左:店舗内での座り込み占拠闘争



右:ワールドカップモール店前でのテント座り込を警察が放水銃で弾圧